

みくらんど

JA全農えひめ情報

■特集

生産資材コスト低減の取り組み

8

2015・August



▶雪雀酒造の蔵と店構え



▶酒造り風景



雪雀酒造株式会社

代表銘柄 雪雀
創業 1915年（大正4年）
代表者 代表取締役 猪野 敏朗
住所 松山市柳原123番地
TEL 089-992-0025



▲純米大吟醸「雪雀」と純米吟醸「しずく媛」

愛媛の酒蔵めぐり

2

雪雀

雪雀酒造は今年10月に創業100年を迎えます。創業時の銘は『雀正宗』。昭和6年に初代と親交のあった犬飼穀首相が豊作の瑞兆とされる雪を清酒の清らかな様になぞらえ、雀が竹の切り口に米粒を運び自然発酵で酒になったという話『雀の酒造り』にちなみ命名。『雪雀』が誕生しました。

「酒造りで一番大切なのは、良い原料米をふんだんに使うこと」と社長の猪野さん。卓越した技能で黄綬褒章を授かった先代杜氏の「酒の味を決めるのは麴米」という教えを継ぎ、主に兵庫県産山田錦を使用し、淡麗さの中にコクが小味として生きた酒に仕上げています。

しずく媛については、「地産地消となる愛媛県初の酒造好適米がありがたい存在です。収量が増えれば、しずく媛をふんだんに使った酒を多く造っていただきたい」と猪野さんは期待を込められます。さらに、「日本酒は明日への活力に良い役割を果たすツールです。昔から地元で親しまれてきた味わいを大切に、これからも『旨い』とうなる感動の酒を、基本に忠実に、変わることをない本流の酒造りで積み重ねて新しい展望を拓いていきます。消費者の視点を大切に、モノづくりの原点である酒造りの楽しさを失うことなく」と酒造りへの熱い胸の内を吐露されます。

あぐり〜ど

August 2015

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



汗をかいたらビニールプールに水をはって水遊び。ひと浴びして、からだの気持ちよくなった頃、一緒に冷やしたトマトやスイカもちょうど良い食べ頃になったかな？ 炎天下では農作業もひと休み。テレビの前のお父さんは枝豆をつまむ手が思わずとまって、高校野球も佳境かな？ 暑〜い夏をそれぞれに楽しく乗り切って、涼しい秋を待ちましょう。

●表紙：行水
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.176

愛媛の酒蔵めぐり②〜雪雀酒造(株)

2

〈特集〉生産資材コスト低減の取り組み

「トータルアグリード事業」を通じて
トータルコストダウンを推進します。

8

THE・ねっとわーく

9

レインボーフェスティバルinえひめ2015の開催について
県内JA新トップ紹介

10

ふるさと ESSAY VOL.244

今だから「とべりて」
山田 ひろみさん

12

TOPIC NEWS

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉トマト

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

「トータルアグリード事業」を通じて トータルコストダウンを推進します。

JA全農えひめ生産資材部は、「トータルアグリード事業」の取り組みを通じて、担い手等予約結集に基づく結集メリットの価格反映（予約価格対策）に加え、JAグループ独自品目など低コスト・省力化資材や施設の開発・普及促進等を通じて、生産資材コストの低減と低コスト供給体制の確立に取り組んでいます。今回は、生産資材部の資材コスト低減の取り組みを紹介します。

【肥料農薬課】 農業経営全体での トータルコストダウンを

肥料農薬課は、現在JA全農えひめが進めている「トータルアグリード事業」を通じ、肥料・農薬の担い手予約価格を中心に目に見える価格の引き下げに取り組むとともに、土壌診断を基本とした適正施肥や病害虫発生予測に基づく適期適正防除の徹底により、収量・品質の向上をめ

ざしています。

また、新しい商品や施肥防除技術の開発、普及により、施肥防除の省力化や軽減化、労力配分等も含めて農業経営全体でトータルコストダウン（低コスト資材＋収量・品質の向上＋省力化）を進めています。

◇肥料のトータルコストダウン

農業の基本は「土壌」「土づくり」という考えのもと、土壌診断による分析結果に基づき「必要なものは入れる、不必要なものは入れない」という姿勢で土壌改良と適正施肥を進

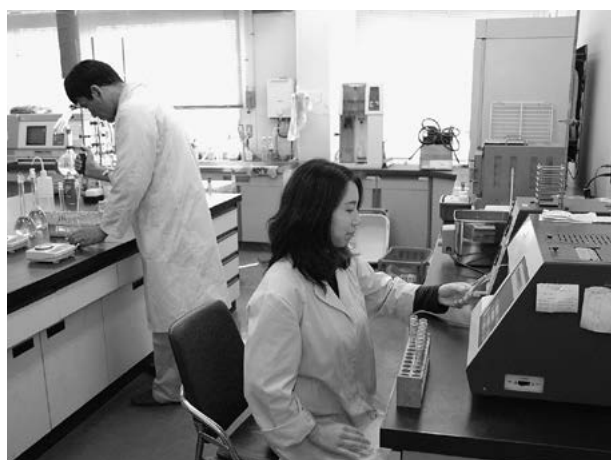
めています。

現在、統一資材リスト銘柄をJA指針へ採用し、予約用紙に導入してもらうことで予約価格の引き下げに取り組んでおり、今後はさらに法人・大口農家への価格対策として、早期引取りや400袋・600袋の満車直送（指定銘柄・リフト必要）により物流コスト削減分を価格に反映させるような取り組みも行っていく予定です。

また、①四国地区結集銘柄（地域のニーズに応えるため、開発普及を



進めている「いざなみ」「農援隊」
 ②低成分銘柄（県独自銘柄として普及に取り組んでいる、「しあわせ化成」「菌根甘965」）③コーティング肥料（県下の土壌分析結果を基に水稲ではV型（14-8-12など）、野菜ではL型（7-5-5など）を基本に作物にあった配合割合を決め、効率的施肥、施肥労力軽減に取り組んでいる）等の地域の実情に合わせた商品の開発と普及に取り組んでいます。
 さらに、水稲では育苗箱全量施肥「苗箱まかせ」や流し込み施肥、鉄コーティング直播といった省力技術、柑橘では従来から取り組んでいる



た中晩柑用の年2回施肥に続き、温州みかんの年間1回施肥（「みかん一発667」「楽や農680」10（11月施肥）による省力化等の実証・普及に取り組んでいます。
 ◇農薬のトータルコストダウン
 肥料同様に、統一資材リスト銘柄による予約価格引下げに取り組むとともに、水稲除草剤についてはコスト削減品目の設定も行っています。
 法人・大口農家への価格対策としては、水稲の箱施用剤や除草剤、スプリンクラー防除薬剤等、大型規格農薬のラインナップを進めるとともに価格引き下げに取り組んでいます。

また、箱処理剤の播種時同時処理や水稲除草剤の水口処理、ラジコンヘリによる農薬散布等、省力散布技術の実証・普及に取り組んでいます。

さらに、JAグループがメーカーと共同開発した水稲除草剤「MY100」「AVH301」、全農が販売権利を取得した園芸殺虫剤「スプラサイド」「ジェネリック農薬の「ペンコゼブ」「ジェイエース」等の普及推進によりコスト削減を進めており、今後も生産者の要望に応じて新規剤の開発、重要剤の権利買取、新規技術開発等に取り組んでいきます。
 ◇愛媛農業の未来のために

肥料農薬課では、今後も、農家手取りの向上を目指して資材費の価格引き下げに取り組むとともに、将来にわたって農家・担い手に農業を続けてもらうため、収量・品質の向上のための新しい商品や施肥防除技術の開発、普及、施肥防除の省力化や軽減化に取り組み、愛媛農業をバックアップしていきます。

【農機課】
 独自型式や中古農機の
 取り扱い拡大めざす

農機課では、新品・中古・部品の



3事業を展開しており、事業別の取り組みを通じて、安価な農機の取り扱い拡大とコスト低減に取り組んでいます。

新品事業では、JAグループ独自型式と特別仕様機および愛媛県独自の重点型式を設定して価格メリットを追求し、毎年12月に開催している県下統一展示会「農機ビッグフェア」や各JA主催の展示会・実演会での普及拡大に取り組んでいます。

中古事業と部品事業に関しては、県内系統中古農機情報共有化による中古需要への対応強化、西日本部品

センター（岡山県）を通じた部品の即納（発注後翌日納品）率向上を目的として、JAに対してWEBEOSというネット上での部品発注・中古農機管理システムの利用を促進し、取り扱い・取り組みの拡大を図っています。

◆新品事業

JAグループ独自型式と特別仕様機の推進

大量生産機をベースに、自動化機能・装備を絞り込むことでコストパフォーマンスを重視しながらも、農家の長持ち志向に応える高耐久性、操作負担を軽減する操作性、作業者の安全面を考慮した安全性の提供を目的に、JAグループの独自型式・特別仕様を設定し、価格メリットの追求と普及に取り組んでいます。

①愛媛県重点型式の早期推進

農家への直接的メリット還元を目的に、トラクター・田植機・コンバインの3機種を対象とし、需要期終了後に早期推進期間を設け、期間内に納品・売上を完了する製品に対して特別早期価格を設定しています。対象型式については、愛媛県の農業実態に即した型式をJAとの協議を踏まえて設定しており、価格メリッ



ト適用の拡大に取り組んでいます。

◆中古農機事業

県内系統中古農機情報の共有化
近年、中古農機への需要が高まる中で、県内中古農機の流通促進を目的に、情報の共有化・定期的な発信などの取り組み拡大が望まれています。

JA全農では、全国の中古情報共有化に向けて、WEBEOSの導入を進めています。情報共有化の取り組み状況としては、各JAで保有している中古農機情報を県内で共有す

るため、WEBEOSに情報を掲載し、定期的な情報の更新・発信に努めることとしています。愛媛県内でのシステム導入は11JA・18農機センターにとどまっています（全32拠点、普及率約56%）。未導入の拠点については、中古農機情報の発生都度、JA全農えひめ農機課がWEBEOSへ代行掲載することで需要に対してスムーズな対応に努めます。

中古農機情報は、農家の求める質と価格にタイムリーに答えられるかどうかが問われます。今年度は中古農機情報管理重点年度としてWEBEOSの掲載情報の内容充実を進めており、県内の幅広い中古農機情報を掲載することで、多様なニーズに対応できるようさらなるレベルアップに取り組みます。

◇部品事業

～西日本部品センターへの参画による部品即納率向上

平成23年1月より、部品即納率の向上を目的にJA全農えひめで単独運営していた農機パーツセンターの事業について、愛媛・鳥取・島根・山口の4県を対象県とした西日本部品センターへ事業移管しました。同

部品センターは平成27年4月現在では対象県に岡山を加えた5県で運営しており、今後も参加県を拡大する予定としております。目的としていた即納率は愛媛単独運営時の37%から75%（平成26年度末時点）へと飛躍的に向上しており、迅速な修理整備対応に役立っています。今後も即納率向上などの改善に向けてWEBEOS導入促進を進めていきます。

【施設農住課】 予約結集対策と ハウスの低コスト化を推進

施設農住課では、「トータルアグ



リード事業」を通じた、「農ビ・農ポリ加工品部会予約結集対策」「施設園芸農家育成対策」の取り組みとともに、燃料費高騰に伴い省エネ対策が求められる中、ハウス加温機の更新需要に対応するため、「ハウス加温機予約推進」による農家負担の軽減などに取り組んでいます。

①農ビ・農ポリ加工品部会予約結集対策

被覆資材（加工品）においては、平成22年度から原料価格が上昇し、平成22年度5%・平成23年度5%、平成25年度5%値上げという情勢で、平成26年度についてはメーカーの値上げ要請に対し、消費税増税に加えてこれ以上の値上げは施設園芸農家の縮小に繋がりがかねないとして、前年価格据置で決着しました。

農ビ・農ポリ加工品では、農ビ14品目、農ポリ5品目を重点品目として設定。品目の集約と需要の結集を背景に、部会（組織）の予約購買メリットを追求し、資材コスト低減に取り組んでいます。また、予約メリットを明示し、予約率の向上にも取り組んでいます。平成26年度の予約率は64・9%となっており、平成27年度はさらなる予約率の向上をめざし

て取り組んでいます。

②施設園芸農家育成対策

消費者と生産者を直接結ぶ「農産物直売所」では、四季を通して安定した品揃えが必要であり、それには施設園芸は不可欠です。低コストハウスの普及推進を図り、直売所の活性化と施設園芸農家の裾野を広げる取り組みを進めています。

ハウス仕様については、事前にJAと協議し仕様・規格を設定します。推進・取りまとめを行い1JA5戸以上で助成を適用し、ハウス資材コスト低減に取り組んでいます。平成



27年度も直売所等でチラシを配布し、利用を呼びかけています。

③ハウス加温機予約推進

青果物の周年栽培化の中でハウス加温機は必要不可欠ですが、導入経費が高く大きな負担となっていました。また、20型・22型加温器は導入後20年以上経過しており、その部品も供給停止になってきています。そこで、更新需要の対応に重点を置き、早期予約による価格メリットを打ち出し推進に取り組んでいます。

④低コスト野菜栽培プラントの普及推進

愛媛県農林水産研究所と協力し、「低コスト野菜栽培プラント」の開発・普及に取り組んでいます。野菜栽培をしたことがない方でも、栽培マニュアルに従い管理すれば、葉物野菜の周年安定生産が可能で、小規模面積から安価にプラント導入ができるシステムとなっており、普及推進に努めています。

【段ボール工場】

段ボール・包装資材のコスト低減の取り組み

JA全農えひめ段ボール工場は全

農グループ唯一の直営段ボール工場として機能強化を図ってきました。

高品質な製品を効率的に製造し、安定供給するために、ISO9001の認証を取得し、顧客重視の原則のもとに品質管理を徹底し、PDCAを繰り返し実践してきました。そして、さらなる機能強化に向けて、平成26年8月より全国本部を窓口として関東5県と九州地区の段ボール強度試験受託を開始し、西日本地区の品質試験拠点体制の確立に努めています。

資材コスト低減に対する取り組みとしては、「トータルアグリード事業」展開の一環として、段ボール・包装副資材の予約メリットを価格に反映するとともに青果物段ボールでは茶箱化・低コスト原紙の普及拡大・OPニスなし化を促進してきました。そうした中、平成26年度をもって全てのJAにおいて切り替え可能な製品に関して実施を完了しました。

また、包装資材新形態の企画提案による取扱い拡大対策として、身蓋一体型の段ボール箱の提案による作業の効率化・市場ニーズへの対応、鮮度保持等の商品価値の向上につな



「農家手取りの最大化」に向け、 生産資材コストの低減を推進します！

JA全農えひめ 生産資材部長 石川 忠司

JA全農は「農家手取りの最大化」を掲げ、JAと一体的に生産資材コストの削減に取り組みます。

平成28年度からの3か年事業として、県内にモデルJAを設置し、生産資材事業の課題を検証した上でコスト低減の具体策を進めていきます。

農家手取りの最大化を実現するには、「販売価格を高めること」「物財費や労働費を削減すること」「生産性を向上すること」、生産から販売までのトータルコストの削減に取り組む必要があります。

このことは農業協同組合の理念であり、これまでもあらゆる方策で農協マンが取り組んできたことは言うまでもありません。

肥料農薬・農業機械・園芸資材・段ボール・副資材とも、厳しい農業環境を踏まえて、全農がメーカーと交渉してきたことは、価格の安定にとどまらず、低成分・低コスト肥料の開発、系統独自規格品の開発、銘柄・機種の一統など、一定の成果につながっていると云えます。

一般に「JAの生産資材価格は高い」と言われることがありますが、決してそのようなことはありません。

一部の商業者やホームセンターは、客引き用に特売商品の設定が臨機応変に行うことができるため、「昨日買ったものが今日は安くなっている」「数量が限られている」「全農の品質基準に満たない商品がある」、という場合もあります。

JAは農家予約を基本にしているため、予約と当用の2本立て価格がベースとなっています。それでも全農が実施する定点調査によると、全国的には農薬の8割の品目でホームセンターには負けていない結果を得ています。また、JAには信頼と安心が求められているため、原料・成分において間違いのない商品づくりを心がけています。派手な宣伝やパフォーマンスはありませんが、地道に農家の経営向上に努めています。

JAが市場に一定のシェアを確保した上で価格を提示することは、商業者の価格をけん制するという大きな機能を持っています。JAの価格を基準に商業者は価格設定を行っているのが現状です。

これからもJA・JA全農えひめは、更なるコスト削減に向けて、系統推奨品目の具体策を推進していきます。「良い物をより安く」ぜひJAの生産資材を今後もご利用下さい。

がる資材提案及び実証試験を今後も継続していきます。

自工場における市場競争力確保に向けた取り組みにおいては、平成25年3月にA式段ボール箱製造ライン

「EVOL（エボル）」を導入して製品の品質・生産性の向上を図る投資を実施するとともに、年間稼働率の平準化をめざし、早期引き取り対策、予約製造対策の精度の向上促進に努

めてきました。

また、同時に製造ライン毎に故紙・不良率の削減、型替え時間の短縮等の目標を設定し、毎月の達成に向けて日々努力しています。

◇段ボール資材の情勢と今後の価格動向について

段ボール原紙の主原料である国内古紙価格は平成25年8月に買い取り価格が15円/kgに引き上がった後、横ばいで推移しており、輸出古紙の価格20円/kgとの間で、国内製紙会社の買入れ価格が上昇傾向にあります。また、円安の進行・電気・重油価格等を理由にメーカーは原紙価格の値上げを要請してきています。

こうした中、段ボール工場としては、段ボール販売価格の値上げにつながらないように、全国本部との協調を図りつつ、製紙メーカーとの交渉に全力を投じることでJAグループの総合力を発揮し、資材コストの低減に努めていきます。

事業のグローバル化の中、全農グループ唯一の段ボール工場としての機能を最大限に発揮し、組合員・JAと協同することで今後も経営改善に努め、求められる負託にこたえていきます。

JA全農えひめ 平成26年度取扱高実績

(単位：百万円)

部 門	計 画	実 績
食 糧 部	3,113	2,909
営 農 販 売 部	45,598	39,042
畜 産 部	11,375	12,869
生 産 資 材 部	16,173	14,450
生 活 部	12,843	12,188
合 計	89,101	81,457

JA全農えひめグループ会社 平成26年度取扱高実績

(単位：百万円)

会 社 名	計 画	実 績
(株) え ひ め 飲 料	29,008	27,502
J A え ひ め アイパックス (株)	4,104	4,391
J A え ひ め フレッシュフーズ (株)	3,275	3,528
(株) ひ め ラ イ ス	5,157	4,241
J A え ひ め エネルギーマ (株)	2,953	2,920
(株) え ひ め フ ー ズ	869	871
J A え ひ め 物 流 (株)	6,880	6,808
合 計	52,246	50,260

平成26年度 全農愛媛県本部表彰

新居浜市農業協同組合	愛媛たいき農業協同組合
------------	-------------

【特別功労表彰】 ※カッコ内は農協名。

高橋 和久 (西条市)	宇都宮宗昭 (西宇和)
越智 英治 (越智今治)	紙崎 一也 (東宇和)
木下 邦男 (松山市)	高山 一幸 (えひめ南)

【優良職員表彰】 ※カッコ内は農協名。

近藤 章仁 (うま)	宮岡 寛樹 (愛媛たいき)
黒川 直樹 (西条市)	野島 武 (西宇和)
石原 博和 (周桑)	藤永 純一 (西宇和)
曾我部周三 (越智今治)	村上 克也 (東宇和)
藤本 成吾 (株)ジェイエイ越智今治	清水 裕二 (東宇和)
菅原 勝宏 (松山市)	武田 大志 (えひめ南)
仲岡 隆敏 (えひめ中央)	

管理部

THE

ねとわーく

「会員代表者会を開き 平成26年度事業を報告」

JA全農えひめは、6月30日、松山市のJA愛媛で会員代表者会を開き、平成26年度の事業報告を行いました。

■平成26年度事業報告

県本部の取扱高は、畜産部以外は計画を下回り、全体で計画比91%の

814億5,700万円となりました。食糧部は、米販売価格の下落と種子供給の減少により取扱が減少。営農販売部は、温州みかんの正品出荷量の大幅減少・価格低迷、野菜の数量減少・単価安により取扱高が減少。畜産部は、豚肉の販売数量増・単価高により取扱高が増加。生産資材

部は、消費税増税の影響、施設工事の事業延期や計画変更、みかん用段ボールの出荷数量減少により取扱が減少。生活部は、家電製品などの生活用品やメモリアル関連品の販売不振により取扱実績が計画を下回る結果となりました。事業利益段階では、各部門で事業管理費の削減に努めたものの、計画を1,000万円下回り、実績は1,000万円となりました。経常利益段階では、受取配当金が減少しましたが、内部資金利率の変更により金利負担が大きく軽減されたことで、計画を1,600万円上回りました。特別損益は、固定資産売却の延期や

計画外の固定資産除却、退職給付債務の会計基準変更による引当差額を特別損失に計上したことで計画を1,600万円下回りました。この結果、当期利益は計画を1,600万円下回る2,200万円となりました。また、県本部グループ7社の売上高合計は、計画比96%の502億6,000万円となったこと等を報告しました。同日には各連合会表彰も行われ、JA全農えひめ関係では、平成26年度の系統経済事業の取り組みに功績のあった2JAとJA職員19人を表彰しました(表彰者は左表のとおり、敬称略)。

〈イベント情報〉

10月31日(土) アイテムえひめで レインボーフェスティバルを開催します！

J A全農えひめとグループ会社は、10月31日（土）、松山市大可賀のアイテムえひめで、生産者と消費者の交流イベント「レインボーフェスティバルinえひめ2015」を開催します。

■日時：平成27年10月31日(土) 9：40～15：30

■場所：アイテムえひめ（松山市大可賀）

この催しは、全農グループの経営理念「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」に基づき、「新鮮で安全・健やかな食文化の創造」「生産者と消費者のネットワーク」をコンセプトに、県内J Aや各種団体のご協力により、毎年開催している県内J Aグループの一大イベントです。今回で23回目になります。

会場では、J A・関係組織による県内各地の農畜産物・特産品の即売、食と農の体験イベント、キャラクターショー、オレンジロードスタートイベントなどを行う予定です。

出品参加を希望される担い手・グループは、最寄りのJ Aまたは下記のイベント事務局までご連絡ください。

◆イベント事務局：J A全農えひめ 総務課（担当：湯上）（TEL089-948-5308）



県内J A新トップ紹介

J Aうま

代表理事組合長

（平成27年6月27日就任）

篠原 一志
しのはら かずし



◆略歴

- 昭和23年生まれ
- 昭和52年 妻島農協入組
- 平成15年 J Aうま代表理事専務
- 平成19年 J Aうま代表理事組合長
- 平成22～25年 J A愛媛県信連代表理事理事長
- 平成27年 J Aうま代表理事組合長

J A新居浜市

代表理事組合長

（平成27年6月25日就任）

福本 頼幸
ふくもと よりゆき



◆略歴

- 昭和20年生まれ
- 平成17年 新居浜市農業委員
- 平成12年～新居浜市治良丸土地改良区理事長
- 平成21年 J A新居浜市理事長
- 平成22年～新居浜市土地改良協議会理事
- 平成27年 J A新居浜市代表理事組合長



今だから「とべりて」

私が四国へ嫁ぐ時、叔母が妙な事を言ってきた。「ひろみちゃん、何か理由があつて四国に行くんやろうね」「……うん？」叔母が何を言いたかったか、当時の私はちんぷんかんぷん。

それに気づかされたのは50歳を過ぎてからだ。自分に自信を持たせてくれた砥部焼にご恩返しがしたいと思うようになった時、「あつそうか」。叔母はこれを言いたかったのかとようやく呑み込めた。人にはそれぞれお役目があるに違いないと思った。昔から窯屋の奥さんは、陰ながら主を支える慎重しやかな存在。私のように自分の名前前で作品を発表する人はそういなかった。そんな私に砥部の産地はやさしかった。だから、続けてもこれだ。今ではたくさんの女性作家が活躍している。今度は私の番だ！と自然に産地への思いが湧き、女性グループ「とべりて」の誕生に繋がった。女性が砥部焼を元気にする！とはいえ、前に立ちは

だかる大きな壁をどう乗り越えたいか。自分達の殻を破り、新しい扉を開けようともがきながらもやってきた。「動いている人にしかチャンスは来ない」。これはテレビの対談番組での中村知事の発言。その言葉にハッと、テレビの前で私は何度も何度も大きく頷いた。

その知事とは「とべりて」結成間もない頃からの縁で、応援を頂いている。初会合は大変緊張し、待っている間もソワソワ、ドキドキで落ち着かない。段々と顔も強張ってくる。そこへ颯爽と現れた知事はテレビで拝見するより断然カッコいい。「素敵」とさっきの動揺はどこへやら。リラックスした知事の対応で、皆すぐにミスター化し、ファンになったのは言うまでもない。場は一気に和み、会話も弾む。「皆さんは砥部焼ガールズですね」と言われたものなら、そうじゃないとわかっていても「そうかも♡」となる。こ

山田ひろみ

HIROMI YAMADA

砥部焼作家・砥部焼伝統工芸士。

昭和32年佐賀県大町町生まれ。九州造形短大デザイン科卒業後、デザイン事務所（佐賀市）入社。昭和56年きよし窯・山田公夫さんとの結婚を機に、きよし窯で活動、染付の仕事に入る。平成4年一級技能士認定、技能士検定県知事賞受賞。平成9年国の伝統工芸士（加飾部門）認定。平成15年タオル美術館（今治市）にてHIROMI YAMADAブランドのデザインタオル発表。平成17年砥部焼伝統産業会館にて初個展・陶雛ヒナまつり「ひいなさま」開催。平成20年愛媛県美術会員、砥部町シンボルタワー「愛伊砥（えいと）くん」のデザインに携わる。平成21年、全国展開のペーカリーショップ・リトルマーメイドのオリジナルカップをデザイン。平成22年いよてつ高島屋にて個展「陶雛ひなまつり」、平成23年タオル美術館ICHIHIROにて「山田ひろみ常設展」開催。平成24年砥部町文化功労賞受賞、平成26年砥部町無形文化財（加飾技術）認定。平成25年より女性作家（7人）グループ「とべりて」代表として、女性目線での砥部焼PR活動を展開中。

受賞歴は、愛媛の陶芸展 最優秀賞、一水会 奨励賞、県展 特選4回、愛媛物産展 最優秀賞、砥部焼祭り新作展 大賞、他多数受賞。

◆砥部焼窯元きよし窯

伊予郡砥部町五本松364 TEL 089-962-2168
<https://www.facebook.com/kiyoshigama>

▶「伊予灘ものがたり」試乗会はすごく楽しいご褒美でした



うして知事との奇跡のような繋がりから、私達は存分に知事パワーを戴き、精力的に活動ができるようになった。砥部焼きみきゃんピンバッチも誕生。知事が最初に付けて下さった事で、バッチは大きな役割を担い砥部焼を大いにPRできた。胸元を飾る「みきゃん」はどこかしら誇らしげに見えたと、私達にとっては「とべりて」の星☆と、とても感謝している。

昨夏から始まったJR四国の観光列車「伊予灘ものがたり」で使う食器も私達が作った。女性客がターゲットのこの企画は「とべりて」のコンセプトと一致すると、仕事の依頼がきた。結成して初の大舞台、私達の力が試される。打ち合わせから納品まで8ヵ月以上かかった。いよいよ待望の試乗会、胸が高鳴る。年甲斐もなくまるで遠足気分皆大はしゃぎで乗り込む。地元



▲「みかんジュースが出た〜〜!!」山田さんが描いたみきゃんの鉢。行政とのコラボ、いろいろやっています!

の食材をふんだんに使った料理が自分達の器でサービスされると「わあー!」と歓声上がる。車窓に映る瀬戸内の海がキラキラ輝き、大役を果たした安堵からか、皆ケラケラと笑い、汗した制作の日々を癒してもらった。グループ立ち上げ当初は、いろいろ不安も多かったろうとメンバーの心情を察していただけに、皆のこの笑顔は何よりもうれしく、尊く思えた。

こうして色々ありながらも、どうにかここまで来れたのも、皆様のお蔭と感謝している。砥部の佐川町長に至っては「とべりて応援団長」と自ら公言され、いつも温かく見守り、励まし「頑張り過ぎないように」と労わって下さる。いろんな方々との出逢いや、取り組み、企画等々、紙面の都合上ご紹介できなかったのを残念に思う。

私の人生は愛媛に来て始まった。人とのご縁に導かれ、助けられ、求められ、今日の自分がある。嫁いで来た頃、知り合いもいない狭い世界に閉じこもっていたあの頃の私は、今の私を想像できたのだろうか。歳を重ねるとはいなものだ。いろんな事が起こり、いろんな想いが駆け巡る。今じゃないとわからないことや、今だからやれる事もある。心にアンテナを張り、スイッチONで、前を向いて生きていきたい。がんばれ私。がんばれ「とべりて」!!

●JA愛媛野菜生産者組織協議会 40周年記念大会

「愛顔の広がる活力ある産地」をめざして！

愛媛県内の11JAの21品目・80部会（のべ約4,000人）で組織するJA愛媛野菜生産者組織協議会は、6月24日、「愛顔の広がる活力ある産地をめざして」をテーマに松山市で40周年記念大会・平成27年度通常総会を開催しました。

大会には、県内11JAの野菜生産者・役職員、愛媛県、市場関係者など370人が出席し、40年の歩みを振り返るとともに、大会決議を行ったほか、愛媛県農産園芸功労知事表彰（個人3人・1部会）、26年度野菜生産改善共進会（4品目）の表彰のほか、JA全農えひめより40周年記念の感謝状を4農家・3部会・功労者1人・協力市場4市場に贈りました。

協議会は、昭和50年10月に「野菜生産農家の経営安定と野菜産地の振興」を目的に結成し、栽培講習会・現地研修会・生産対策会等を通じて栽培技術や生産性の向上・生産基盤強化など販売と連動した生産振興に取り組むとともに、生産者参加等による「えひめ野菜」の消費宣伝・販売促進活動に取り組んでいます。この間、協議会の取扱額は平成5年に100億円を超えて以降減少傾向で、平成26年は約55億円に減少しており、品質向上・反収アップ、1戸あたり栽培面積の拡大、生産コスト低減や後継者・地域リーダーの育成を積極的に進めることを確認しました。

通常総会では、27年度計画と宝利義博会長（JAうま・新任）以下の新役員体制を決めたほか、「JAグループの自己改及びTPP交渉に関する特別決議」を採択しました。

その他の主な役員および受賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内はJA名）。

◆平成27～28年役員体制

▽副会長＝福山数義（えひめ中央・新任）、三好三智男（ひがしうわ・新）

【愛媛県農産園芸功労知事表彰】▽農業者＝森賢一郎（松山市）▽他の模範となる者＝上村正治（元名京阪神愛媛会副会長）▽団体役職員＝白石敏夫（松山市）▽他の模範となる団体＝



JA西条春の七草部会

【26年度野菜生産改善共進会】

◆夏秋きゅうり▽県知事賞＝中岡将（愛媛たいき）▽全農愛媛県本部長賞＝兵頭祐一（ひがしうわ）▽協議会会長賞＝東中利男（愛媛たいき）、上城伸也（ひがしうわ）、能田清志（えひめ中央）

◆夏秋とまと▽県知事賞＝西川健二（愛媛たいき）▽全農愛媛県本部長賞＝中嶋豊（松山市）▽協議会会長賞＝中野知昭（愛媛たいき）、稲田久光（同）、田丸幸彦（松山市）

◆夏秋なす▽県知事賞＝福岡暉司（えひめ中央）▽全農愛媛県本部長賞＝武智昭（同）▽協議会会長賞＝窪田正明（同）、江戸貴幸（同）、松田雄輝（おちいまばり）

◆ミニトマト▽県知事賞＝井門裕彦（おちいまばり）▽全農愛媛県本部長賞＝日高義久（えひめ中央）▽協議会会長賞＝辻田隆一（同）、吉本誠司（おちいまばり）、芝祥正（ひがしうわ）

【40周年記念感謝状】▽野菜振興優秀農家＝渡辺十二（おちいまばり・元JA愛媛野菜生産者組織協議会会長）、石原保志（周桑・元同協議会メロン部会長）、山内正和（周桑・元同協議会アスパラガス部会長）▽優秀部会＝JAうま特産部会里芋専門部会、JA松山市ピーマン部会、JA愛媛たいききゅうり部会▽功労者＝小仲克彦（元名京阪神愛媛会会長）▽協力市場＝JA全農青果センター（株）大阪センター、京都青果合同（株）、大果大阪青果（株）、大阪中央青果（株）

●愛媛県肉牛生産者協議会27年度総会

繁殖牛の基盤維持と経営体質強化めざす

愛媛県肉牛生産者協議会は、6月15日、松山市のJA愛媛で平成27年度総会を開き、27年度事業計画を決めました。

27年度事業方針では、防疫・衛生管理の徹底により安全・安心な伊予牛「絹の味」の生産・販路拡大、県ブランド牛の生産・販売と併せ県行政と一体となってオール愛媛ブランド牛の認知度向上、県内産繁殖牛の基盤維持と子牛育成技術の向上等に取り組めます。また、TPPに関する国会決議の実現を求める特別決議を採択しました。



なお、総会に先立ち、26年度優良生産者として、大塚久寿さん（JAにしうわ）を表彰しました。

●愛媛県くり研究同志会平成27年度総会 特選・銘柄栗の販売強化を！

愛媛県くり研究同志会（会員2,157人）は、6月5日ＪＡひがしうわ城川支店で、平成27年度総会を開き、大野奉孝会長（ＪＡ愛媛たいき・再任）以下の役員体制と農家所得の向上と競争力のある産地づくりに向けた27年度計画を決めました。

また、「ＪＡグループ自己改革及びTPP交渉に関する特別決議」を採択しました。

愛媛県は26年のクリ生産量が全国第3位で、クリは中山間地域の基幹作物。27年度計画では、①特選・銘柄クリ等のブランド商品の生産・販売体制の強化、②消費者ニーズに沿った安全・安心なクリ栽培、③各種研修会の充実による高品質果実生産、④消費地と産地の的確な情報交換と行政・ＪＡと一体となりクリ産地の維持発展に取り組むことを確認しました。

総会後は、ＪＡ愛媛たいき営農指導課の東浩一さんが「日本一のクリ産地をめざして」と題して事例発表し、緩効性一発肥料やナギナタガヤを使った草生栽培などを通じた省力化対策、農家手取りとやる気の向上に向けた加工契約販売と銘柄栗の取り扱い拡大、地域が一体となった「大洲まるごと栗イズム」の取り組みを紹介しま



した。

なお、26年産栗のＪＡ全農えひめ扱いの販売実績は、数量402t（前年比113％・計画比101％）、kg単価648円（同92％）で数量増の単価安となりましたが、市場出荷数量は計画比101％と計画を上回る出荷となりました。

その他の主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内は所属ＪＡ）。

▽副会長＝岡田廣實（えひめ中央・新）▽監事＝笹岡庄蔵（ひがしうわ・新）、伊勢谷重一（えひめ南・新）

●第21回 愛媛県JA-SSチェーン大会 お客様のドライビングパートナーとしての店づくり！

愛媛県JA-SSチェーン本部（メンバー38SS）は、6月10日ＪＡ愛媛で第21回大会を開きました。

大会では、平成27年度の活動計画を決め、大会決議を採択。修正マスタープランに基づく老朽化対応として統廃合による拠点整備を行うとともに、地域ライフライン網の維持に向けた取り組みを進め、事業基盤の再構築による競争力強化と、営農用・配送油種の安定供給とコスト削減に取り組み、組合員・利用者から信頼されるJA-SSをめざすこと、チェーン活動を通じてドライビングパートナーとしての店づくりに取り組むことを確認しました。

なお、優秀SSや従業員表彰も行われました。受賞者は次のとおりです（敬称略・カッコ内はSS名）。

【総合表彰】（株）ＪＡ東宇和サービス野村中央SS、ＪＡ愛媛たいきサンライズ56SS、【揮発油部門】ＪＡ西条古川SS、ＪＡ愛媛たいき長浜セルフSS【新規客数拡大部門】ＪＡ周桑中央SS、ＪＡえひ



め中央伊予セルフSS【油外収益部門表彰】ＪＡ愛媛たいき川下SS、ＪＡ愛媛たいき大瀬SS【SS従業員表彰】▽SS所長＝小野耕一（ＪＡにしうわ三瓶）▽SS従業員＝村上雄（ＪＡ周桑中央）、近藤大介（ＪＡえひめ中央拝志）、岡本章宏（ＪＡ愛媛たいきサンライズ56）、田中伸治（株）ＪＡ東宇和サービス野村中央）、近藤雄介（ＪＡえひめ南JASS-PORT津島）

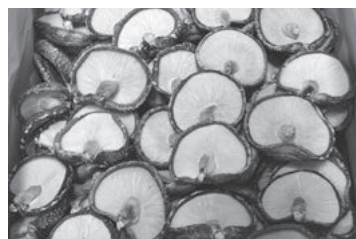
●第48回全農乾椎茸品評会

成高王洋さんが3年連続農林水産大臣賞受賞！ ～愛媛県から8人が入賞しました～

J A全農主催の第48回全農乾椎茸品評会が、6月16日石川県金沢市で開かれ、愛媛県関係では中葉中肉の部で成高王洋さん（J A愛媛たいき）が3年連続の農林水産大臣賞を受賞したほか、8人が入賞しました。

今回は全国21県から350点、うち愛媛県からは35点が出品され、審査の結果、各賞が決まりました。入賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽農林水産大臣賞〈中葉中肉の部〉＝成高王洋（愛媛たいき）▽全農会長賞〈大葉厚肉の部〉＝大塚幸男（ひがしうわ）、〈大葉中肉の部〉＝和氣重臣（愛媛たいき）、〈中葉厚肉の部〉＝河内遼一（同）、中村重清（ひがしうわ）▽日本



3年連続農林水産大臣賞を受賞した成高さん出品の乾椎茸

きのこセンター理事長賞〈中葉厚肉の部〉＝久保勝利（愛媛たいき）、〈中葉中肉の部〉＝大和田孝（ひがしうわ）▽全農全和会長賞〈大葉厚肉の部〉＝高橋茂行（ひがしうわ）

●平成27年度農業経営支援実践研修会

営農・信用が連携し、J Aの総合力で担い手の経営支援を

J A全農えひめ営農振興課とJ A愛媛県信連、J A愛媛中央会は、6月12日、松山市で、「平成27年度農業経営支援実践研修会」を開きました。この研修会は、J Aの営農・信用の担当者が一体となり担い手の農業経営支援能力を習得し、J Aの総合力を発揮して担い手の所得向上につなげることを目的に、初めて共同で開催しました。J Aの営農指導員やTAC、農業融資実務者など60人が参加しました。

営農部門ではTAC活動、信用部門では農業メインバンク実践計画と農機具等リース応援事業（アグリシードリース）の概要などの情勢を報告した後、参加者は7班に分かれてグループワーク演習を行いました。

演習では、与えられた例題を基に、担い手の



経営上の問題点を洗い出し、担い手の意向を踏まえて、作付品目・面積などの経営内容、機械化・施設化等の投資、労働力・労務費、融資などを勘案して、担い手に提案する「経営改善計画表」を作成していきました。

●愛媛県米麦振興協会第21回通常総会

品質向上・安定生産と販売促進、優良種子の確保を

愛媛県米麦振興協会は、6月10日、J A愛媛で第21回通常総会を開き、26年度事業計画を決めました。会議には、県・行政、J Aなど関係者約20人が出席しました。

米については、県内需要に応じたJ A別・銘柄別作付け計画に基づいた生産誘導と作型の集約を推進。「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」を中心に作付誘導を行うとともに、酒米用の「松山三井」「しずく媛」など用途別に即した生産誘導を行います。「にこまる」は、平坦地を中心に計画的に導入を進めるとともに、低温・日照不足の条件下でも本県への適応性が一定確認できたことから、26年産「ヒノヒカリ」に次ぐ米の食味ランキング「特A」評価獲得に向けて取り組みます。

主食以外の「水田活用米穀」の作付を推進し、現行耕作面積のフル活用を進めるとともに、低コスト多収生産技術の確立に向け、品種や栽培技術の実証を行います。

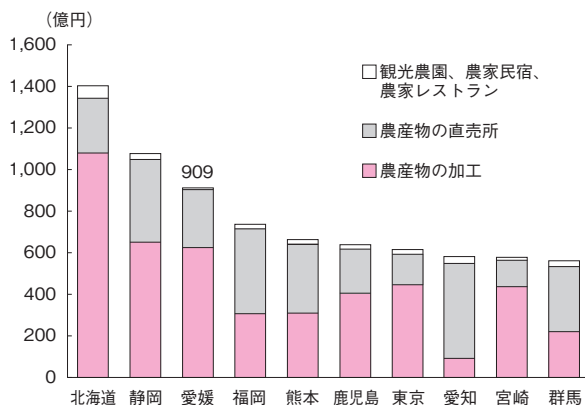
28年連続生産量日本一のはだか麦は、愛媛特産品として維持するため、担い手を中心に品質向上や確実な生産量確保と安定的な供給体制の確立に取り組みます。高品質・安定生産に向け新品種「ハルヒメボシ」は優良な種子生産の確保を図り中長期的な生産導入、加工適性試験、の継続実施などに取り組みます。

大豆は、担い手への集約、ブロックローテーションを進め、高品質・安定生産技術の確立・普及徹底に取り組みます。

知って得する 統計BOX

地域の農産物等が新たな価値を生み出す！－ 6次産業化総合調査(平成25年度) 結果から －

図1 農業生産関連事業年間販売額(平成25年度、都道府県別)



6次産業化総合調査は、農業経営体及び農協等による農産物の加工、農産物直売所、観光農園、農家民宿及び農家レストラン等の各事業(以下「農業生産関連事業」という。)

愛媛県の年間販売額は全国第3位

6 次産業化とは、原材料を生産する1次産業としてだけでなく、加工などの2次産業、更にはサービスや販売などの3次産業まで含め、1次から3次まで一体化した産業として農業の可能性を広げようとするものです。

今月は、愛媛県における6次産業化の実態についてみていきます。

図2 農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数の推移(愛媛県)

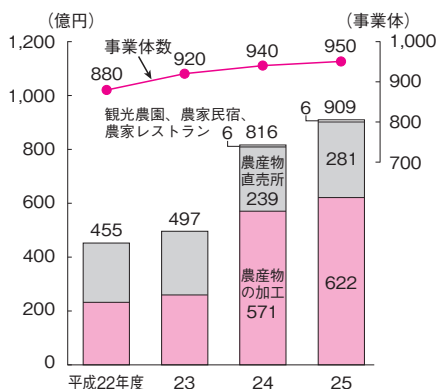
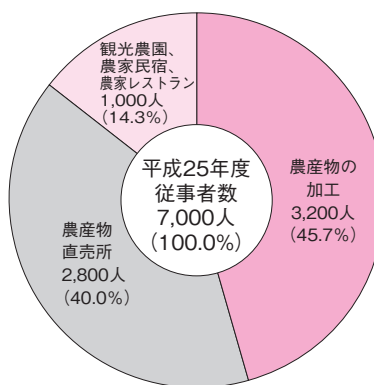


図3 農業生産関連事業の従事者数(愛媛県)



の販売金額、従事者数等を調査したものです。

平成25年度の全国の農業生産関連事業による年間総販売金額は1兆8,253億円で、前年度に比べて801億円(4.6%)増加しました。また、総従事者数は46万8,200人で、前年度に比べて1万7,000人(3.8%)増加しました。

一方、愛媛県の農業生産関連事業による年間販売金額は909億円

農林水産省では、意欲ある農業者の皆様が主体となって6次産業化に取り組めるよう、総合的にサポートしています。

中国四国農政局
松山地域センター農政推進グループ

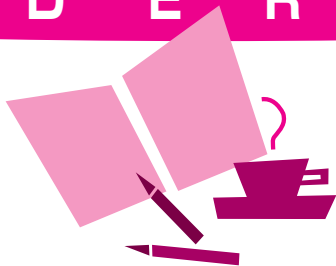
農山村地域の所得や雇用を増大し、地域活力の向上を図るためには、農業者が自ら生産した農産物をそのまま出荷するだけでなく、消費者や実需者のニーズに対応して、加工、直売等を行い高付加価値化を図るほか、地域の特性に応じて、観光農園、農家民宿や農家レストラン等多様な取組と融合した事業展開を図るなど、地域資源を最大限活用し、農業を起点として新たな価値を創出することが重要です。

6次産業化で、地域に活力を

で、前年度に比べて93億円(11.4%)増加しました。業態別には、農産物の加工が622億円と最も多く、全体の68%を占めています(図2)。

また、年間販売金額を都道府県別にみると、愛媛県は北海道、静岡県に次いで全国第3位となっています(図1)。

事業体数は950事業体、従事者数は7,000人で、前年度に比べてそれぞれ10事業体(1.1%)、200人(2.9%)増加しています(図2・3)。



●特集の岡岡副本部長インタビュー「トータルグリーン事業」。この産地においても高齢化、担い手不足により生産量が減少傾向にある中で、果樹等の広域選果の件について述べられていましたが、今後ぜひこのことについて検討して進めてほしいと思います。集荷等の問題はありますが…

農協法改正案が衆議院を通過しました。この改正案の目標に農業所得の増大を掲げていますが、どのような理由で所得が増加するのか全く理解できません。JAの改革により資材等の経費の削減は必要だと思います。中山間地帯の実態を把握したうえで進めてほしいです。

(大洲市・大本 昭裕さん)

●岡岡副本部長インタビューは、JA全農えひめの事業方針、事業の進め方が品目別に詳しくのべられよくわかりました。特に農家が気になりますのは資材価格ですが、全農が価格引き下げに努力されていることがよくわかりました。

全農が事業に取り組む姿勢はよくわかりますが、農協の役員をやっているにもかかわらず、農協の立場では全農の存在すら見えてきません。もっと農協や農家へPRすることはできませんか。

(松山市・萩山 増男さん)

●山田ひろみさんのエッセーを拝見し、私の若かりし頃のことを思い出しました。三度の食事の支度と子育てで平凡な毎日「私の人生これで終わってしまうのか」そんな時、もともと好きだった会社の仕事に出逢い、主人の協力もあって、家庭・パートの仕事・会社と三つこなし、充実した楽しい日々を送ることができました。皆さんもあらゆる可能性にチャレンジしてください。

「絹かわなす」の苗を今治の地で栽培しても「水の都 西条」のように育たないそうです。「絹かわなす」が「幻の野菜」と言われるのは、豊かな土壌と名水に恵まれているからだと思えます、トロリとした食感、甘み、とりこになってしまいうそうです。

(今治市・阿部 徳子さん)

●山田ひろみさんの陶雛づくりとの出逢いは、とても素晴らしいと思いました。年代もそんなに変わらないので、とっても共感しました。「継

続は力なり」ととてもいい言葉だと思います。私も大好きな言葉です。

(八幡浜市・米花 佐智子さん)

●山田さんのエッセーを読んだ。人生で、出逢い、ご縁は不思議な力を持っているのですね。頑張っている山田ひろみさんにエネルギーをもらいました。

(松山市・大西 傑さん)

●ホテル椿館が主催する産地地消の取り組みに感謝します。ホテルと愛媛産農産物のアピールのために今後も続けてください。

(内子町・奥田 愛梨さん)

●なんでもBOXで、知り合いの青野小夜子さん、ホテル椿館主催のアスパラ料理コンテストで最優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。アスパラも立派に作り最高ですね。

(西条市・長谷川 光子さん)

●NHKの「ためしてガッテン」でお茶が免疫力を高めることなどが紹介され感動しました。また、本誌で県内の茶産地4JAで組織する協議会が新茶まつり開催の記事を読んで、お茶の素晴らしさにハマりそうです。

(上島町・益崎 君枝さん)

●クッキングを読んで。飲んだり、固めてゼリーにしたりしてきましたが、米料理にも使えるえひめかんじゅうス！炊き込みご飯に挑戦してみます。やつぱり、えひめかんじゅうスはおいしいです。

JAバンクえひめが行っている「JA直売所スタンプラリー」は、コッコツとスタンプを集めます。あと4か所なので、楽しみながら頑張ります！

(今治市・菅 隆子さん)

●ジュースの炊き込みご飯が気に入りました！小学校の給食にも出ているみかんご飯は、東京転勤の友達も東京の方に伝えて好評だということでした。

(松山市・伊藤 公則さん)

今月のクイズ

JA全農えひめとグループ会社は、10月31日にアイテムえひめでイベントを開催します。県内JAや生産者団体などの出品参加を得て開催しているこのイベント名は？

「○○○○○○フェスティバル」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成27年9月17日(当日消印有効)

発表

「あぐりーど」10月号で発表します。

当選者発表

6月号の答えは「57回目(代目)」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

仲野みづきさん(松山市)	秦 一也さん(今治市)
明比 美子さん(西条市)	藤田亜紀子さん(今治市)
鳥生 逸夫さん(今治市)	武智セツ子さん(松山市)
村上美佐子さん(上島町)	三木江正治さん(西予市)
越智 修三さん(今治市)	大野 幸恵さん(砥部町)

編集後記

★特集は、JA全農えひめとグループ会社は、10月31日にアイテムえひめでイベントを開催します。県内JAや生産者団体などの出品参加を得て開催しているこのイベント名は？

NOW NOW

COOKING

今月の素材

トマト



真っ赤な完熟トマトは栄養満点、
真夏の暑さを乗り切る健康野菜

▶ (左) トマトとエビのチリソース、(右) トマトのサラダ寿司
(中後) 冷やしトマト



指導／学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

トマトとエビのチリソース

〈材料・4人分〉	※1人あたり約162kcal
トマト	2個
無頭エビ	16尾
片栗粉	適量
キュウリ	1本
白ネギ (みじん切り)	1/2本
サラダ油	大さじ1
豆板醤	小さじ1/2
④ ケチャップ	大さじ2
⑤ ショウガ (みじん切り)	大さじ1
⑥ ニンニク (みじん切り)	小さじ1
鶏ガラスープ	300cc
⑦ 酒	大さじ1
⑧ 砂糖	小さじ2
⑨ コショウ	少々
水溶性片栗粉	大さじ2
サニーレタス	2枚

〈作り方〉

- ① エビは殻をむき、背わたを取り、水でさっと洗って水気を取り、片栗粉をまぶす。
- ② 鍋に湯を沸かし、①のエビを1尾ずつ入れ、浮いてきたら取り出す。
- ③ トマトは大きめの角切り。キュウリは縦半分に切り、種を取り、斜めに切る。
- ④ フライパンに油を熱し、豆板醤を炒めて辛味と香りが出れば④を入れ、さらに香りが立てば鶏ガラスープを加え、⑧で味を付ける。
- ⑤ ④が沸けば、②③白ネギを加え、さらに沸いたところへ水溶性片栗粉でトロミをつける。
- ⑥ 器にサニーレタスを敷き、⑤を盛り付ける。

冷やしトマト

〈材料・4人分〉	※1人あたり約181kcal
トマト (小)	4個
水	540cc
砂糖	150g
杏露酒	100cc
レモン (3mm幅・半月切り)	4枚
チャービル	適量

〈作り方〉

- ① トマトは芯を取り除き、丸のまま湯むきをする。
- ② 鍋に水、砂糖、杏露酒を入れて温め、①とレモンを入れて弱火で5分位炊き、鍋ごと冷やす。
- ③ 器に盛り、チャービルをのせる。

トマトのサラダ寿司

〈材料・4人分〉	※1人あたり約343kcal
トマト	1個
オクラ	4本
卵	1個
大葉	4枚
白ゴマ	大さじ1
刻み海苔	適量
ご飯	2合
ケチャップ	大さじ1
④ (寿司酢)	
酢	大さじ2・1/2
砂糖	大さじ3
塩	小さじ1/2

〈作り方〉

- ① 鍋に④とケチャップを入れて火にかけ、よく混ぜ、ひと沸きさせて火を止める。
- ② ボウルにご飯を入れて①を入れ、しゃもじで切るように混ぜ合わせる。
- ③ トマトは湯むきをし、横半分に切り、種を取り除き、1cm角に切る。
- ④ オクラは塩茹でして冷水に取り、小口切り。
- ⑤ ボウルに卵を割りほぐし、フライパンで薄焼き玉子を焼き、刻む。
- ⑥ ②に③④、刻んだ大葉、ゴマを混ぜ合わせる。
- ⑦ 器に盛り付け、⑤と刻み海苔をのせる。

のんで! あつめて!

あけてうれしい POMお楽しみ宝箱プレゼント

応募締切 **2015年 12/31** まで

対象商品の応募マーク **5枚1口** で
宝庫の中に **色んな商品が ザクザク!**

1,000名様に当たる!!

オリジナルクオカード & POM商品詰め合わせ

※応募マークが100枚以上ある場合は、応募マークの枚数に応じて、宝庫の中から商品が選べます。

買って!! 飲んで!! 集めて!!

※POMキャンペーン対象商品

宝庫マークを5枚集めたら、ハガキに貼って応募!

キャンペーンの情報は
こちらから
■ホームページアドレス
<http://www.ehime-inryo.co.jp>

対象商品

- ポンジュース 1Lペットボトル
- アップルジュース 1Lペットボトル
- ポンジュース 500mlペットボトル
- グレープジュース 1Lペットボトル
- フルーツミックスジュース 1Lペットボトル

キャンペーン対象応募マーク

こちらの応募マーク5枚1口で応募できます!

※応募マークが100枚以上ある場合は、応募マークの枚数に応じて、宝庫の中から商品が選べます。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地

TEL: 089-923-1527 FAX: 089-924-0304

えひめ飲料

はじめませんか？ 省エネ住宅でエコライフ。

JAオリジナル住宅

エコキャンペーン

2015年4月1日～12月30日

※2016年3月31日までに着工可能、及び床面積30坪以上の方に限ります。

Age

JA home "Age" Series
21世紀の安心、エイジ

【エイジ】

**Es
mind**

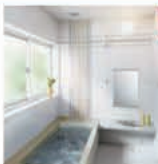
【イーズマインド】

期間中、ご成約の方に、
**エコキュート460ℓ
プレゼント！**

光熱費がお得！地球環境にも
やさしい給湯システム。



リフォームも
「基本は安心」
JAホームで。



バス

〈こんな方に〉
この際、快適な
システムバスに
したい。タイルが
ひび割れて、
水漏れが心配。



キッチン

〈こんな方に〉
IH、食器洗い等、
機能を充実
させたい。
流し廻りを
清潔に保ちたい。



トイレ

〈こんな方に〉
汲取りから
水洗便所に
したい。
座って楽な
洋便器にしたい。

新築から増改築まで、なんでもお気軽にご相談(無料)下さい。

お気軽に近くのJAホーム窓口までお問い合わせ下さい。

一貫したトータルサービスで安心をお届けします。

まずはお気軽に
お電話ください。
専門の担当者が
ご相談に
お伺いします。

ご相談

JAホームの営業

ご契約

施工

完成お引き渡し

アフターサービス



お近くのJA窓口へ

JA全農えひめ 生産資材部 施設農住課
TEL(089)948-5473

JA/JA全農